

“有 V” 構造に関する一考察¹

A review of the Chinese structure “you-V”

劉 琛琛

LIU Chenchen

要旨：本稿ではコトとムードの観点からパーフェクトマーカースとされている文末の“了”と比べた上で、“有 V”構造に用いられる“有”を考察した。その結果、“有”が<状態の確認>や<状態の強調>、つまり話者の心的態度を表していることから、文の外側の部分に位置するムードであることを明らかにした。

キーワード：“有 V” 構造 “了” コト ムード

1. はじめに

1980年代から香港、台湾のテレビドラマが中国内陸部へ伝わってきて以来、生活の面から文化、言葉の面まで中国内陸部の人々に大きな影響をもたらした。言葉の面だけ言えば、“港台腔”(香港・台湾なまり)が若年層に限らず、中高年層の人々にも広がっている。そのうち、最も代表的なものは次の例のような新種の“有”構文である。

(1)我有去过那家餐厅。

[そのレストランへ一回行ったことがある。]

(2)你有在听我说话吗?

[私が今言っていることを聞いていますか。]

(3)书店有售。

[本屋で販売されています。]

これらの“有”構文で用いられる“有”は「所有」の意味を表す動詞ではない。それぞれの文には主動詞“去/行く”“听/聞く”“卖/売る”があり、“有”は助動詞的な役割を担っているに過ぎないからである。これらの文を分析してみると、構文上、“有”が主動詞の前に生起することによって“有 V”構造となり、動詞に更にアスペクトマーカース (“在”

¹本論文は杭州師範大学望道プロジェクト研究「日本語・中国普通話・粵語のアスペクトに対する対照研究」(RWWD1314)の研究成果の一つである(本文為“杭州师范大学望道项目《日语・中文普通話・粵語中“体”的比较研究》”(項目号:RWWD1314)的成果之一)。

“ 过 ” など)をつけることができることと、意味上、過去や現在の事態には使えるが未来の事態には使えない(例えば、“ × 明天我有去上海 ”)ことは観察される。本稿ではこの“ 有 V ” 構造に用いられる“ 有 ” を考察することでこの新種の“ 有 ” 構文の使用実態を明らかにしたい。

2. 先行研究と理論背景

2.1 先行研究と問題提起

この“ 有 V ” 構造に関していくつかの研究が見られ、次に挙げられる研究はその代表的なものだと言える。

まず、石毓智(2004)では“ 有 ” 構文の歴史的な発展を辿りながら現代中国文学作品における使用現象を調査することによって“ 有 ” がパーフェクト²を表すという結果が得られている。しかし、石毓智(2004)で取り扱っている“ 有 ” 構文は“ 有 V ” 構造に限らず、“ V + 有 ”、“ 有 + N ”、“ 有所 + V ” など構造も含まれているから、従来言われている「存在」、「所有」の意味を表す“ 有 ” 構文と混じり合う恐れがある。

それから、龔煥新(2006)では台湾語における“ 有 V ” 構造の構文的特徴と文法的意味を分析することで石(2004)と同じ結果を得ている。しかし、“ 你有打篮球吗 ” のような習慣を表す文に用いられる“ 有 ” がパーフェクトを表す点について議論の余地があると思われる。

また、王曉春(2008)では“ 有 V ” 構造を“ V 了 ” と比べることで“ 有 V ” 構造は“ V 了 ” と同様にパーフェクトを表すとしている。しかし、両者の比較は先行研究と文法的意味の紹介に止まっており、詳しい分析が欠けていると思われる。

最後に、陳前瑞ら(2010)では中国南方系方言(主に閩南語、客家語、粵語)における“ 有 V ” 構造の使用現象を方言間で比べ、“ 有 ” のムード的な文法機能からアスペクト的な文法機能への発展を辿った結果、現代において“ 有 V ” 構造の“ 有 ” はムードではなく、パーフェクトを表すアスペクトの副詞又は助動詞であると結論付けている。

つまり、従来の研究は“ 有 V ” がパーフェクトを表す機能を持っていることで一致していると言える。しかし、現在普通話に流行っている、南方系方言から由来した“ 有 V ” 構造は普通話の“ 了 ” と同様にパーフェクトを表すのであれば、“ 有 ” と文末の“ 了 ” が同時に用いられる場合はどう説明すればいいのか。また、なぜ“ 我有在写作业 ” は単なる発話

² 原文では“ 完成体 (perfect aspect) ” と記されている。

時において「宿題を書いている状態である」ことを表すのに対し、“我已经在写作业了”は「宿題を書いていない」状態から「宿題を書いている」状態への変化を含んでいるのか。今までの研究結果ではこれらの問題に対して説明しきれないところが多いと思われる。

2.2 理論背景

本稿では“有V”構造に用いられる“有”をアスペクトマーカースとされている“了”と比較し、コトの内部の一つを構成するか、それともムードを表すかという観点から考察したいと思うから、ここではまずコトとムードについて説明しておく。

寺村(1984)ではコトとムードについて次のように定義している。

コトは、文の中核ではあるけれども、文そのものではない…本来コトというのは、そのかなめである述語が、そのいろいろな活用形に関わりなく、それぞれの述語の辞書的意味と、その補語とが結びついて、あるまとまった意味を表すものである。

寺村 1984. p11

現実のいろいろな場で、話し手が、コトを相手の前に持ち出すもち出しかた、態度を表す部分を、本書では「ムード」という構文要素とした。

寺村 1984. p12

テンスは、ムードの一つである確言のムードが、時に関わる文であるときに、必ず選ばねばならぬ形式、つまりムードの一つの形であり、アスペクトは、コトの中心をなす述語に付随して、いろいろな描叙類型的意味を添える形式の一つ、つまりコトに属する要素の一つである、と考える。

寺村 1984. p118

寺村(1984)は主に日本語を巡ってコトとムードの定義を出したが、言語類型論から見れば同じ定義を中国語にも適用すると思われる。つまり、コトは事実を客観的に述べるから、文の内側の部分であるのに対し、ムードは発話者の心的態度を主観的に表すから、文の外側の部分であると言えよう。

3.“有V”構造におけるアスペクトマーカースの使用状況

“有V”構造は主に会話文で使われ、地の文ではほとんど観察されない。この点においては“了”と大きく異なっている。従来の研究において、“了”は二つあり、動詞につく“了₁”と文末に生じる“了₂”であるとされている。それぞれの“了”の持つ文法的機能とその意味についてはまだ議論されているが、本稿では劉琛琛(2013)の分類と定義に従うこと

にする。

3.1 進行相の“在”

“在”が進行相のアスペクトマーカ―として用いられる場合、いつも動詞の直前に生じるから、“有V”構造に使用されれば“有”と動詞の間に生じる。

(4)我有在認真聽你說話唷!。(Yahoo!奇摩)³

[あなたの話をまじめに聞いているよ。]

(5)看看大家好像有在聊军训的事。(百度)

[みんな軍事訓練のことを話しているようですね。]

(6)但既然他们已经在干了,就让他们按议定的方针干下去吧。(CCL)

[もうやっているのであれば、協定の方針でやらせていい。]

(7)現在有哪些夏令營已經有在招生了??(Yahoo!奇摩)

[どこかもう生徒を募集しているサマーキャンプがありますか。]

上記の例文で観察されるように、“有”も“了₂”も進行相の“在”と共起することができるが、意味的な差異が存在する。“有”が“在”と共起する場合、進行相の文法的機能が依然として“在”によって担われ、“有”は進行中である動作や行為、又は事柄を状態として捉え、動作主が発話時においてその状態にあることを表す役割を果たしていると考えられる。つまり、動作を進行していることを表すのであれば“在”だけで十分であるが、動作主が現時点においてある動作・行為が進行している状態にある意味を加えるのであれば“有”の介入が見られる。次の疑問形式からも分かるように、それぞれの疑問形式に対する答えが異なる。

(8)你在听我说话吗?

[私の話を聞いている?]

在 / 不在。

[聞いている / 聞いていない。]

(9)你有没有在听我说话? / 你有在听我说话吗?

[いったい私の話を聞いているのか?]

有 / 没有。

[はい / いいえ]

³ 本稿では「Yahoo!奇摩」から検索した例文を如実に反映するため、例文の文字を台湾で使われる繁体字にする。それに対し、「百度」から検索した例文を簡体字にする。

しかし、“在”と共起する“了”は“了₂”に限り、状態が変化し、現時点が変化後の状態であることを表すから、この“了₂”には<変化>の意味が含まれている。例えば、例文(6)と(6')を比べてみよう。

(6')但既然他们在干，就让他们按议定的方针干下去吧。

[やっているのであれば、協定の方針でやらせていい。]

例文(6)には「やっていない状態からやっている状態への変化」が含まれているのに対し、(6')にはそのような<変化>が一切含まれず、「彼らが今やっている」という進行の意味しか観察されない。つまり、進行相マーカ―と共起する場合において“有”は「その状態にある」こと、所謂<状態の確認>又は<状態存在への強調>を表しているから、話し手の心的態度を表していると言えるものである。つまり、文の外側の部分で、ムードである。それに対し、“了₂”は<変化>という意味を表し、物事を客観的に叙述するカテゴリーに属するから、文の内側の部分で、コトであろう。また、例文(7)のような“有”と“了₂”の共起も両者の異なる機能を裏付けている。

3.2 継続相の“着”

陳前瑞ら(2010)では南方系方言における“有 V”構造の“有 DP_s”と“有 SP_s”⁴は典型的な状態の存在を強調する結果相の一種であるとしている。前節での考察からも分かるように、進行相マーカ―と共起する“有”が動作主が進行している動作・行為という状態に存在することを表すため、陳(2010)の述べる<状態存在の強調>と一致していると言える。それゆえ、<状態存在>のカテゴリーに属する<状態継続>のマーカ―“着”と共起しなくても<状態継続>の意味を表すことができる。

(10)a.门上贴着“福”字。

[ドアには“福”という字が貼られている。]

b.门上有贴“福”字。

[ドアには“福”という字が貼られている。]

c.? 门上有贴着“福”字。

d.妈妈：帮妈妈看看门上有没有贴着“福”字。 / 帮妈妈看看门上有没有贴“福”字。

[お母さん：ドアに“福”という字が貼られているかどうかちょっと見てきて。]

女儿：有啊，有贴着。

⁴ 陳前瑞ら(2010)では、“有 DP_s”は“有 + 動態述語”、“有 SP_s”は“有 + 静態述語”を指している。

[娘：あるよ。]

(11)a. 爸爸在沙发上坐着。

[お父さんがソファに座っている。]

b. 爸爸有坐在沙发上。

[お父さんがソファに座っている。]

c. ?爸爸有在沙发上坐着。

d. 妈妈：爸爸有没有在沙发上坐着啊？ / 爸爸有没有坐在沙发上啊？

[お母さん：父さんがソファに座っているの？]

女儿：有啊，有在沙发上坐着。 / 有坐在沙发上。

[娘：はい、ソファに座っているよ。]

以上の例文に観察されるように、“有”も“着”も<状態の存在>を表す機能を持つから、同時に使われるとやや相性が悪くなる。しかし、“有”の疑問形である“有没有”になると、“着”との相性がよくなる。それは“有没有”が<状態の存在>に対する尋問であるからと考えられる。しかも、その疑問文への回答形式も疑問文に“着”が生じるかどうかによって変わり、疑問文に“着”が生じていればその回答文にも“着”が生じるのに対し、疑問文に生じていなければ回答文にも生じないのが一般的である。また、陳(2010)で結果相をアスペクトと見なしていること自体には特に議論の余地がないが、アスペクトのカテゴリーに属する結果相であれば事態を客観的に叙述するコトの部分になる。しかし、この“有V”構造の“有”が<状態の強調>を表しているから心的態度を表すムードに入るべきだと思われる。

それに対し、“着”と“了₂”の共起状況はやや異なる。

(12)a. 有人说杭州城已挂着白旗了，有人说革命党已占领绍兴了。（CCL）

[杭州城には白旗がもう掛けられているとか、革命党がもう紹興を占領したとか噂が流れている。]

b. 有人说杭州城挂着白旗。

[杭州城には白旗が掛けられているそうだ。]

(13)a. 爸爸已经在沙发上坐着了。

[お父さんがもうソファに座っている。]

b. 爸爸在沙发上坐着。

[お父さんがソファに座っている。]

例文(12)と(13)から一目瞭然で、“了₂”が用いられる文には<変化>の意味があるのに対

し、用いられていない文には<状態の継続>の意味しかない。ゆえに、“了₂”はアスペクトと関わっているからコトの一部である。それに、“有”と“了₂”との意味的な差異は進行相のマーカ―と共起する場合よりもっと目立っている。

3.3 完成相の“了₁”

“了₁”と“了₂”の文法的機能について、陳(2010)では次のように述べている。

完成体(perfect)不等于完整体(perfective)。体貌类型学一般认为，完成体主要用来确认事件的发生，并具有现时相关性，多用来表示旧信息，如普通话句尾“了”的部分功能(句尾“了”表示进入或即将进入新情况的功能，“有”字句多不具备…)；而完整体用来表示事件的进程，主要用来表示新信息，如普通话词尾“了”的主要功能。

(パーフェクト(perfect)と完成相(perfective)は異なるものである。アスペクトの種類論では、パーフェクトは事件の発生を確認すると同時に、現在テンスに関わっており、古い情報を表すものであり、普通話では文末に生じる“了”によって表され得る(文末の“了”は新しい状況に入った、又はもうすぐ入ることを表しているが、“有”構文はこのような機能を持たない)のに対し、完成相は事件の進行状況、主には新しい情報を表すものであり、普通話では動詞に接続する“了”によって表されることを区別している。) ⁵

陳前瑞ら2010 . p. 52

劉(2013)でも同様の見解で、“了₁”は完成相の文法的意味を表すのに対し、“了₂”はパーフェクトの文法的意味を表すとされている。完成相とパーフェクトに対する定義について両研究には多少のずれが見られるが、本稿では劉(2013)に従うことにする。つまり、完成相は出来事をひとまとまりとして捉え、現時点と関わらない性質を持っているのに対し、パーフェクトは出来事を現時点に関係付けるといった性質を持っている。もし“有V”構造が<状態の存在>を表すものであれば、意味上完成相と相性が悪いと言えるから、“了₁”との共起は認められないはずである。

(12)a. 常常聽到莫非定律這四個字有人知道莫非定律是什麼嗎?它有給了我們什麼樣的忠告嗎?

(Yahoo!奇摩)

[マーフィーの法則ってよく耳に入るが、一体何なの?知っている人がいる?何かアドバイスをしてくれたの?]

⁵本稿で引用した先行研究における説明の日本語訳は全て筆者によるものである。

b. 它有给我们什么样的忠告吗？

[何かアドバイスをしてくれたの？]

c. × 它给了我们什么样的忠告吗？

c'. 它给了我们什么样的忠告呢？

[どんなアドバイスをしてくれたの？]

(13)a. 今天我买了很多新鲜的草莓。

[今日、新鮮なイチゴをいっぱい買った。]

b. 今天我有买很多新鲜的草莓噢。

[今日、新鮮なイチゴをいっぱい買ったよ。]

c. × 今天我有买了很多新鲜的草莓噢。

d. × 今天你有买了很多新鲜的草莓吗？

例文(12)と(13)ではやや異なる言語事実が見られたが、筆者が調べたところ、例文(12a)のような言い方はごく少なく、1例か2例ほどの数であった。つまり、“有”と“了₁”の共起は認められないと言える。また、例文(12)b~cと(13)b~dから分かるように、“有V”構造で出来事の完了を表すことができる。それは“有V”構造が現時点における<状態の確認>や<状態の強調>を表すからである。つまり、論理上、実現済みの事態に限り状態の確認ができ、未実現の事態に対しては状態の推測しかできないから、例文(13b)のように“今天我买很多新鲜的草莓”は実現済みの事態でなければ確認不可能な状態にあり、<状態の確認>を表すもの、又は<状態の変化>を表すものなどがある場合に限り、実現済みの事態になる。“×明天我有要买很多新鲜的草莓”、“×明天我有买很多新鲜的草莓给你”のような将来の行為を表す文に“有”の使用が認められないことも“有”の<状態の確認>の意味を裏付けている。

3.4 パーフェクトの“了₂”

もし“有V”構造は<状態の確認>又は<状態の強調>を表すもので、“了₂”は<状態の変化>を表すものであれば、それぞれ異なる文法的機能を担っているから、同時に用いられ得るはずである。

(14)a. 现在有哪些夏令营已经有在招生了?? (= (7))

[どこかもう生徒を募集しているサマーキャンプがありますか。]

b. 现在有哪些夏令营有在招生?

[どこか生徒を募集しているサマーキャンプがありますか。]

c. 现在有哪些夏令营已经在招生了?

[どこかもう生徒を募集しているサマーキャンプがありますか。]

(15)a. 20 岁起水痘了, 现在已经有吃药了, 请问多久才能好呢? (百度)

[20 歳になってから水疱瘡にかかりました。もう薬を飲んでいますが、治るまではどの位かかりますか。]

b. 20 岁起水痘了, 现在有吃药, 请问多久才能好呢?

[20 歳になってから水疱瘡にかかりました。薬を飲んでいますが、治るまではどの位かかりますか。]

c. 20 岁起水痘了, 现在已经吃药了, 请问多久才能好呢?

[20 歳になってから水疱瘡にかかりました。もう薬を飲んだが、治るまではどの位かかりますか。]

上記の例文から分かるように、“有”と“了₂”はそれぞれ違う文法的役割を果たしているから、同じ文に用いられてもそれぞれの文法的意味を表している。つまり、“了₂”はコトであるのに対し、“有”はムードである。

3.5 経験相の“过”

助詞の“过”の表す文法的意味に二つあり、一つは完了を表す“过₁”で、もう一つは経験を表す“过₂”である。“过₁”は動詞につく結果補語を同じ役割を果たしているから、一般的にアスペクトのマーカールと見做されないが、“过₂”は基本的に経験相のアスペクトマーカールとして扱われる。“过₂”の表す経験相の意味には劉月華(1988)で述べられている特徴がある。一つは「某一动作曾经发生或某一状态曾经存在,但在说话时该动作已不进行,该状态已不存在(ある動作が嘗て発生し、又はある状態が嘗て存在したが、発話時において当該動作はもう進行していない、又は当該状態はもう存在していない)」(劉月華 1988:6)であり、もう一つは「通过过去曾发生过的动作或曾存在过的状态,来说明当前的人、事物、事理(過去において嘗て発生した動作、又は存在した状態への記述を通して現在の人、事物、道理の有様を述べる)」(劉月華 1988:10)である。また、孔令達(1985)では経験相マーカールの“过₂”と“了”との共起状況について次のように述べている。

“过₁”不能同动态助词“了”和语气助词“了”同现,而“过₂”可以⁶。(“过₁”は動態助詞の

⁶孔令達(1985)では経験を表す“过”を“过₁”とし、完成を表す“过”を“过₂”としている。また、当論文では動詞に接続する“了”を動態助詞の“了”とし、文末に生じる“了”を語気助詞の“了”としている。

“了”とも語気助詞の“了”とも共起しないが、“过₂”は共起し得る)

孔令達 1985.p104

(19)a.我有看過小説。基本上是和電視情節差不多。(Yahoo!奇摩)

[小説を読んだことがある。ドラマと大体同じことを言っている。]

b.我看过小说。基本上是和电视情节差不多。

[小説を読んだことがある。ドラマと大体同じことを言っている。]

c.我有看小说。基本上是和电视情节差不多。

[小説を読んだ。ドラマと大体同じことを言っている。]

d.我看过小说了。基本上是和电视情节差不多。

[もう小説を読んだ。ドラマと大体同じことを言っている。]

(20)a.这些不要吃,我有吃过其中几样,好后悔。(百度)

[これらのものを食べないほうがいい。いくつか食べたことがあるから。とても悔しい。]

b.这些不要吃,我吃过其中几样,好后悔。

[これらのものを食べないほうがいい。いくつか食べたことがあるから。とても悔しい。]

c.这些不要吃,我有吃其中几样,好后悔。

[これらのものを食べないほうがいい。いくつか食べたから。とても悔しい。]

d.这些不要吃,我吃过其中几样了,好后悔。

[これらのものを食べないほうがいい。もういくつか食べたから。とても悔しい。]

例文(19)と(20)において、“有”と“过”は同時に用いられる場合、“过”は経験相マーカ-の働きをしているから文の内側な部分で、つまりコトであるのに対し、“有”は述べられた経験が存在していることに対する強調や確認を表しているから、依然として文の外側に属する心的態度であり、つまりムードである。また、“过”がなく、“有”だけが用いられた文においては経験相のアスペクトマーカ-が生じていないため、経験相の意味が表現されず、3.3 節で考察した結果と同様に、発話時における実現済みの事態への確認や強調を表している。それから、孔(1985)で述べられているように、経験相の“过”は“了”との共起が認められず、“过”と“了”が共起すれば、完成の意味を表す補語の役割を果たす“过₁”となるから、“过₂”も“了”もコトの一部であることを裏付けている。

3.6 習慣相

中国語アスペクトには「習慣相」という項目がないのは、習慣相を表すマーカがないからである。つまり、習慣の意味を表すのに時間副詞などが用いられるのが一般的である。竇煥新(2006)では“有”が習慣を表す文に用いられる場合、動詞の表す動作や行為が発生する時間は参照時点の前であるから、この“有”はパーフェクトマーカであるとしているが、この場合の参照時点はいつであるかについて明示されていない。通常、習慣というものは過去、現在、未来という時間を問題にしていないから、参照時点も存在しないはずである。以下の例を分析してみれば分かるが、“有”がなくても習慣の意味が相変わらず存在し、“有”の使用はその習慣の確認や強調という話者の心的態度が持ち出されたに過ぎない。

(21)a. 你有打籃球吗? (竇煥新2006)

[バスケットボールをしますか。]

b. 你打籃球吗?

[バスケットボールをしますか。]

c. 你打籃球了吗?

[バスケットボールをしましたか。]

(22)a. A: 你有抽煙吗?

[タバコを吸いますか。]

B: 有时候有抽。(竇煥新 2006)

[時々吸います。]

b. A: 你抽煙吗?

[タバコを吸いますか。]

B: 有时候抽。

[時々吸います。]

c. A: 你抽煙了吗?

[タバコを吸いましたか]

B: ×有时候抽了。

[×時々吸いました。]

竇煥新(2006)では例文(22)を習慣の意味の例として挙げているが、疑問文のほうにおいて前後の文脈や当時の発話場面が分からなければ通常習慣の意味として捉えられず、完了の意味にのみ捉えられる。その答えにおいて副詞の“有时候”があるため習慣相の意味にし

かならないから、“有”の使用はその習慣への確認を表すと言える。

4. 終わりに

今までの研究においては基本的に“有V”構造の“有”をパーフェクトのマーカースとして捉えているが、本稿ではコトとムードの観点からパーフェクトマーカースとされている文末の“了”と比べた上で、“有”は<状態の確認>や<状態の強調>、つまり話者の心的態度を表しているのであり、文の外側の部分に位置するムードであることを明らかにした。言語の発展や中国内陸部に流行っている香港、台湾ブームの影響で、“有V”構造が文末の“了”に置き換わる可能性があるとする主張(例えば、竇焕新(2006))もあるが、“有”と“了”は一見似ているような意味を表しているが、根本的には異なるカテゴリーに属するから“有”は“了”に置き換わる可能性は低いだらうと考えられる。

参考文献：

- 寺村秀夫. 日本語のシンタクスと意味 [M]. くろしお出版, 1984
- 陈前瑞、王继红. 南方方言“有”字句的*多功能性*分析 [J]. 语言教学与研究 2010 第 4 期, 2010.
- 竇焕新. 台湾普通话中的“有+ 动词”研究[J]. 渤海大学学报(哲学社会科学版) Vol. 28 No. 3, 2006.
- 刘琛琛. 日语・中文普通话・粤语中体的比较研究[M]. 浙江工商大学出版社, 2013.
- 刘月华. 动态助词“过₂过₁了₁”用法比较[J]. 语文研究总第 26 期, 1988.
- 孔令达. 动态助词“过”和动词的类[J]. 安徽师大学报(哲学社会科学版) 1985 第 3 期, 1985.
- 石毓智. 汉语的领有动词与完成体的表达[J]. 语言研究. Vol. 24 No. 2, 2004.
- 王晓春. 从“书店有售”说起——论现代汉语完成体新格式“有+V”的语法化[J]. 现代语文. 2008 第 10 期, 2008.

(りゅうちえんちえん / 杭州師範大学)